

高温化対策のためのミストを有効活用した イチゴ栽培体系の確立

- 実施期間：令和4～8年度
- 担当部署：野菜部
- 区分：プロジェクト研究（農業の気候変動適応プロジェクト）

○研究内容

近年の高温化により、イチゴ栽培では経営が不安定になる症状が生じています。育苗期8月の高温では葉が奇形になるなどの生育不良が生じ、10～11月の高温では小果傾向が顕著となり、2～3月の高温では急激な草勢の強まりで食味が低下するなど、対策が急務となっています。

一方、イチゴは他の果菜類に比べて育苗にかかる作業時間が多く、育苗期の高温は、作業者の健康を損なわせるため、育苗の省力化が求められています。

そこで、本圃ハウスにミストを設置することで、イチゴの小果および食味を改善するとともに、ミストを活用して育苗を本圃ハウスで行うことで苗の健全化および育苗の省力化を図り、高温化に対応した新しい栽培体系を確立します。

<開発する技術>

技術① ミストを活用した早期定植による本圃育苗技術の開発

- ・採苗方法（小型培地受け、挿し）
- ・花芽分化を安定させる養液管理



技術② ミストを活用した収量および果実品質向上技術の開発

- ・年内に果実肥大させる制御
- ・2～3月の食味低下を抑制する制御

技術③ 高収量を可能とする栽培マニュアルの作成



- ・CO₂施用等の環境制御と組み合わせると10t/10aの実現
- ・マニュアル作成

収量向上による収益 up
品質向上によるブランド化推進・
省力化+作業環境改善